

## 1 改訂の基本的な考え方

家族・家庭生活の多様化や消費生活の変化等に加えて、グローバル化や少子高齢社会の進展、持続可能な社会の構築等、今後の社会の急激な変化に主体的に対応することが求められている。実践的・体験的な活動を通して、家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての科学的な理解を図り、それらに係る技能を身に付けるとともに、生活の中から問題を見いだして課題を設定しそれを解決する力や、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする態度等を育成することを基本的な考え方とし、改善を図った。

## 2 目標の改善

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
- (2) 家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。
- (3) 自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

- ・目標の(1)・・・学習内容として主に家庭生活に焦点を当て、家族・家庭、衣食住、消費や環境などに関する内容を取り上げ、生活の自立に必要な基礎的な理解を図り、それらに係る技能を身に付けることを示した。
- ・目標の(2)・・・学習過程を通して習得した「知識及び技能」を活用し、「思考力、判断力、表現力等」を育成することにより、課題を解決する力を養うことを明確にした。
- ・目標の(3)・・・(1)及び(2)で身に付けた資質・能力を活用し、自分と家族、家庭生活と地域との関わりを見つめ直し、家族や地域の人々と協働して生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うことを明確にした。

**Point** 育成を目指す資質・能力は三つの柱に沿って示されており、これらが偏りなく実現できるようにすることが大切である。実生活と関連を図った問題解決的な学習を効果的に取り入れ、これら三つの柱を相互に関連させることにより、家庭分野全体の資質・能力を育成することが重要である。

## 3 学習内容の改善・充実

- (1) 小・中学校の各内容の系統性の明確化  
小・中学校ともに「A家族・家庭生活」、「B衣食住の生活」、「C消費生活・環境」の三つの内容とし、各内容及び各項目の指導を系統的に行う。
- (2) 空間軸と時間軸の視点からの学習対象の明確化
  - ・空間軸の視点・・・主に家庭と地域。
  - ・時間軸の視点・・・主にこれからの生活を展望した現在の生活。
- (3) 各内容の各項目で育成する資質・能力の明確化  
アとイの二つの指導事項で構成。原則として、アは、「知識及び技能」の習得に係る事項、イは、アで習得した知識及び技能を活用して「思考力、判断力、表現力等」を育成することに係る事項とした。
- (4) 「生活の課題と実践」の一層の充実  
各内容に位置付け、生徒の興味・関心や学校、地域の実態に応じ、A(4)、B(7)及びC(3)の三項目のうち、一以上を選択して履修。その際、他の内容と関連を図り、実践的な活動を家庭や地域などで行えるよう配慮する。
- (5) 家族・家庭の機能と「生活の営みに係る見方・考え方」との関連を図った内容の見直し  
家族・家庭の基本的な機能については、A(1)に位置付け、家庭分野の各内容と関連を図り、家族・家庭や地域における様々な問題を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承、持続可能な社会の構築等の視点から捉え、解決に向けて考え、工夫することと関連付けて扱う。
- (6) 社会の変化に対応した各内容の見直し
  - ・A・・・少子高齢社会の進展に対応して、家族や地域の人々と関わる力の育成を重視し、高齢者など地域の人々と協働することや高齢者との関わり方について理解することなどを扱う。
  - ・B・・・食育を一層推進するために、献立、調理に関する内容を充実するとともに、グローバル化に対応して、和食、和服など日本の生活文化の継承に関わる内容を扱う。
  - ・C・・・持続可能な社会の構築に対応して、計画的な金銭管理、消費者被害への対応について扱うとともに、資源や環境に配慮したライフスタイルの確立の基礎となる内容を扱う。

## 4 学習指導の改善・充実

・技術分野及び家庭分野の授業時数については、3学年間を見通した全体的な指導計画に基づき、いずれかの分野に偏ることなく配当して履修させる。

**Point** 各学年において、技術分野及び家庭分野のいずれも履修させる。

・題材の設定に当たっては、各項目及び各項目に示す事項との関連を見極め、相互に有機的な関連を図り、系統的及び総合的に学習が展開されるよう配慮する。

**Point** 生徒や学校、地域の実態を的確に捉え、指導の効果を高めるようにする。小学校における学習を踏まえつつ、高等学校における学習を見据え、他教科等との関連を明確にして系統的・発展的に指導ができるようにする。さらに、持続可能な開発のための教育を推進する視点から他教科等との連携も図る。